



様式第2号（第7条関係）

令和7年11月27日

意見交換会報告書

開催日時	令和7年11月15日（土）10時00分～11時30分
開催場所	大脇コミュニティーセンター ホール
出席議員	座長 青木 けんじ 記録者 ふじえ真理子 郷右近 修 出席議員 浅井 たかお 月岡 修一 毛受 明宏 一色 美智子
地域・団体名	栄中学校区にお住まいの方
参加人数	24名
テーマ	地域のお困りごと・市政や議会に対するご意見・ご要望をお聞きます
主な意見・要望	1. 障害児の居場所、避難場所、新たな施設建設に関連する道路整備 2. 生活道路が抜け道になっていて危険 早急に対策を 3. 小中学校の部活動 大人の都合ではなく子どもの権利を大事に 4. スマホ条例制定後のフォローアップは 5. 人材不足による影響 大丈夫 6. デジタル化 誰一人取り残さないために丁寧な対応を 7. ひまわりバス／前後駅にシニアカー止める場の確保を／通路の修繕いつになったら 8. 子育てしやすいまちに 9. 歩道に犬の糞が目立つ
その他 特記事項	議事録とアンケート集計結果は別紙

市民と議会との意見交換会 議事録

日 時 令和 7 年 1 1 月 2 4 日（日） 午前 1 0 時～ 1 1 時 3 0 分
場 所 大脇コミュニティセンター ホール
対象地区 栄中学校区 参加人数 2 4 名
参加議員 青木けんじ 浅井たかお 月岡修一 毛受明宏
一色美智子 ふじえ真理子 郷右近修

【当日の流れ】

- ・会の趣旨を説明したあとに参加議員の紹介
- ・今年度の 3 つの常任委員会で審議した、主な議案 3 件を報告 <15 分間>
- ・会場から出されたご意見、ご要望、ご提案、思い など <75 分間>

◆市民からのご意見・ご要望◆

➡会場での議員の回答

【障害児の居場所、避難場所、新たな施設建設に関連する道路整備を】

○障害児が学校に行けるようになったのは 1979 年から。学校を終えたあとの居場所づくりの活動をこれまでしてきている。障害の重い子は父母などの世話がないと生きていけない。災害時の避難場所がない（福祉避難所があっても難しい）。

令和 9 年 5 月に栄ずし南側の田んぼ（農地転用）に生活介護・日中一時支援施設を立ち上げるために現在動いている。近辺の道路や土地の整備について公的な支援を求めるし、住んでいる方々にも理解していただきたい。バリアフリーの施設になるので、高齢者の避難場所としても機能すると考えるので、施設建設に関連した道路整備に公的な支援を市にしてほしい。

【生活道路が抜け道になっていて危険 早急に対策を】

○星城高校の近くに住んでいる。桜ヶ丘沓掛線が整備され内山トンネル開通後、渋滞を避けて抜け道を使い、高校グラウンド横で一旦停止をしない車が多くて危険。小学生の通学路でもあり怖い思いをしている。例えば、時間設定で区間通行止めにするとか、横断歩道を設置するとか、一旦停止の表示をもっと強調するなど早急に対策をしてほしい。

➡以前一般質問で取り上げた場所かと思うが、変化がないのでご発言なさったのかと思う。現場を確認し、当局へ伝えます。

【小中学校の部活動 大人の都合ではなく子どもの権利を大事に】

○小学校の部活動について。R 6 年度から対外試合は中止、R 7 年度からなくなると聞いている。バスケットボールは週 1 回しか活動日がなくなり、費用が発生し、親による送迎も必要になる。金管バンドがなくなると、子どもたちが楽器に触れる機会が少なくなってしまう。教員の負担軽減はわかるが、退職者などがそれぞれの得意分野で子どもたちを指導するなど（1 時間でも 2 時間でも）やれることがあるのではないだろうか。

○豊明市内のコミュニティスクールの実態は、教頭が中心になって動いている。地域に各専門分野に長けた人材のデータが各学校にあるといいと思う。

○部活動について。地域で支えることが大事だという雰囲気をつくっていかないといけない。スポーツ系の大学生や卒業生など指導者は探せばいるのでは。教員の働き方改革も含め、いずれはこうした流れになっていくと思う。

○部活を学校からなくすのは反対で、子どもがもとめたものではないから。部活動は学年の異なる生徒の中で行って人格が作られることに必要だから。子どもがしたいことを地域で行うことにしても支援がない。専門性をもった人が「いる地域」と「いない地域」があり、学校ごとにできる部活が異なっていて、行き場がない子どもがいる。無理だといわずになんとかしようと考えてほしい。議会もそうあってほしい。

➡中学校で言えば部活が地域のクラブに移行してゆくのではないかと思います。社会人が指導に当たることが多くなるとは思うが、毎日の活動ではなく、学習と課外の活動のバランスは極端な状況にはならないのではと思う。指導に当たる人への支援が必要になると考えます。

➡視察先の杉並がコミュニティスクールを展開していて、芸能や囲碁・将棋など得意なことを生かして学校や子どもの指導にかかわっていて、コーディネーターを通じた運営になっているから、教員の負担にもなっていない。豊明市は学校ごとにまちまちになっている。すぐに解決とはならないかもしれないが、取り組みのための場が必要になるのではないかと。教育委員会に要望したり、委員会として後押ししたりしたい。

➡先月、委員会行政視察（東京都杉並区）した地域連携コミュニティスクールの取り組みを一例として紹介。豊明市内でもそれぞれ地域特性がある。今後も研究を続け、委員会や一般質問などで豊明にあった形の提案をしていく。いま即答できることはないが、問題意識として持っています。

【スマホ条例制定後のフォローアップは】

○スマートフォン等の適正使用の条例は全国に向けた問題提起になったと思うが、スマホ条例制定後のフォローアップはどうなっているか？

- ➡自分は反対の立場で臨んだ。条例を提案する前にアンケートを取るべきと自分は考えたが、対象になる人が広いのでどう取り組むのかについては明確に答弁が市からでなかったように思う。
- ➡賛成で臨んだ。付帯決議として、自由と多様性の尊重、誤解を招かない丁寧な説明と広報、子どもと保護者との連携と支援、継続的な市民からの意見集約の確保、条例の効果検証と見直しを出した。この方向で取り組まれてゆくと考えている。都度、議会としても確認をしていきたい。
- ➡条例に賛成した議員が出した附帯決議には、5つの点に留意するよう当局に求めている。その都度、議会として確認していきます。

【人材不足による影響 大丈夫】

○元職場（教育現場）で、育休時に人員を補充するのに大変苦労した経験がある。市役所はどうか、市民サービスを担う職員についてはどうなっているか？

- ➡職員の育休・産休で補充が必要な場合、補正予算を組んで臨時の職員を補充している。育休・産休がつながって長期になる場合もあり、職員の体制は常に課題がある。市職員の中には育休等で3年間職場から離れる人もおり、サービス維持は課題と考えています。

○産休育休という予めわかる場合はいいが、慢性的に人員不足がある中で、インフルエンザ罹患（本人や家族）による突発的な休暇による人員補充は更に困る。県教育会館人材センターには、登録制で必要なときに要請すると教員が派遣される制度がある。豊明市にも同制度があればと思う。具体的には教員免許所持者を事前に登録し、必要な時に紹介、現場に入れば職場環境が安定するのではないだろうか。

○学校でインフルエンザが広がると職員がいなくなり大変になる。教育会館に人材センターがあり、教員免許保持者が登録制で紹介がされる。豊明市にはそういった制度はあるか。コミュニティスクールでは、地域にいる方の知識はすごいが、コーディネーターは教頭が担っている。学校区ごとに人材を紹介するしくみがあつたらと思うが、どうか。

- ➡地域というのはキーワードと思う。活躍していただく場になるし、子どもの権利を大事にしてゆきたい。各議員が感じることもあると思うので協議していきたい

【デジタル化 誰一人取り残さないために丁寧な対応を】

○スマホで便利な世の中になっている一方で、コンビニでの印鑑証明の取得にスマホ操作が苦手な高齢者がいることも事実。市には、デジタル化に不得手な人への丁寧な対応を望みたい。

➡コロナワクチン接種予約時などでも課題があったと思います。スマートフォンに加えて、電話の受付を運用したと記憶しています。どなたも保障され守られるというのが基本的なスタンスです。

【ひまわりバス／前後駅にシニアカー止める場の確保を／通路の修繕いつになったら】

○内バスに乗って市役所（職場）に行っている議員は何人いるか？ 実際に乗車して不便さを体験してほしい。東郷町や大府市それぞれのコミュニティバスと豊明市のひまわりバスとのつながり（連携）が悪い。調整をお願いしたい。

○シニアカーを利用している高齢女性がいるが、前後駅へ行っても止める場所がない。柔軟に対応してほしい。

○これから、立ち乗りの電動車両などが増えてくるのではないか。受け入れの仕組みを作ってゆくべきでないか。

○前後駅南の通路と階段のところに3cmほどの段差があり、15年も前から指摘しているが一向に直らない。人が死ななければ直さないのか。最近になって、スマホで修繕箇所を市に通報できるようになったことは評価できる。

➡12月議会の一般質問で駅の駐輪施設にシニアカーが駐車を受け入れることは取り上げます。

➡前後駅のスロープと階段がずれていることは以前の一般質問で取り上げた。意見が寄せられて、以前より対応が早くなったと思うが、意見交換会でもお聞きしたと伝えます。バスの接続と利便性についても伝えます。

【子育てしやすいまちに】

○子育てしやすいまちになってほしい。ベビーカーを使って移動する人にとっては、この地域からカラットへ行くことは大変。ひまわり児童館はあるが内容がちょっと物足りなく感じる。

子育て中の親が子どもを預ける時間が最大2時間というのは不便（送り迎え時間も考えると、病院ぐらいしか行けない）。せめて3時間まで預けられたらと思う。

○栄保育園の建物は年数が経っている。園庭を歩いて教室前まで送り迎えをしているが、雨の日は足元が悪く布団も持参していると大変。雨の日の通路があると助かる。

○公園遊具について、すべり台とブランコしかない。乳幼児にとっては小学生と一緒に遊ぶのは危なくて遊べない。小さな子が専用で遊ぶゾーンがあると安心して遊べる（他市にはある）。雲梯や鉄棒はなくさないでほしい。

中京競馬場の公園にインクルーシブ遊具があるが、夕方、距離的に気軽には行けない。落合公園や大蔵池公園にも充実した遊具の設置を希望する。

○陶芸の館付近の横断歩道で中学生が横断するために立っていても、植栽でドライバーが気づかないことが多い。学校の先生が立哨されるが、それは先生の本来の仕事ではないと

思う。対策を考えてほしい。

- ➡他の保育園の状況も確認が必要だと思いますので、実態把握と年次計画を立てることを要望していきます。
- ➡栄保育園、公園について利用者の意見ならではと思った。貴重な意見に感謝します。
- ➡保育所のことは内山など他の円でも聞く。整備は年次計画ですすむが、委員会で要望します。

【歩道に犬の糞が目立つ】

○PTA見守りをやっている。歩道（川沿い）に犬の糞がよく落ちている。

- ➡ワクチンの接種の機会などで飼い主に向けた啓発を強めることを市に要望を伝えます。地域レベルで実態をつかむところから必要だと思います。拾うことよりも糞をそのままにしないことの意識づけが大事であると考えます。

○犬の散歩で糞を放置する飼い主を見かけたら？

- ➡その場で注意します。

※当日、ご来場できなかった方から事前に受けていた声のご紹介をした

- ・皆瀬川の土砂堆積の撤去
- ・側溝の土砂堆積の撤去
- ・繁茂した草による交通見通しの悪さ など

最後に、2月に開催する議会報告会の案内し閉会した。

【アンケートのまとめ】

1. 居住地…豊明市内（栄町：19名、新栄町：2名、阿野町：2名、大久伝町：1名）

※市外…0名

2. 年代…30代：1名 50代：4名 60代：3名 70代：6名 80代以上：10名

3. 意見交換会の開催をどのように知ったか。

議会だより：13名 議会H.P：1名 チラシ：4名 LINE：1名

その他：9名（内 友人から：2名 議員から：5名）

【※複数回答があるため参加者数と異なる】

4. ①意見交換会の進行について

- ・良かった：8名 ・どちらかと言えば良かった：10名
- ・どちらかと言えば良くなかった：0名 ・良くなかった：0名 未回答6名

※スムーズに進行されてよかった。

※フランクで相当に意見が出た。

※少子高齢化社会の中では慢性的課題ですが、生活をしている中で解決していかなければならないことですね。

※一人当たりの発言時間も決めておくと良かった。※こういうことは必要です。

②意見交換会の内容について

- ・良かった：9名 ・どちらかと言えば良かった9名
- ・どちらかと言えば良くなかった：2名 ・良くなかった：0名 未回答6名

※よく分からなかった。

※質問に対して的確な回答であり、良かった。

※内容にこだわらないのが良かった。

※コミュニティースクールに期待。

※各人が自由な発想で質問できていた点が良かった。批判的な意見に終始していなかったことも良かった。

③意見交換会の資料について

- ・良かった：6名 ・どちらかと言えば良かった：10名
- ・どちらかと言えば良くなかった：0名 ・良くなかった：0名 未回答6名

※新しい議題が多く、参考になった。

※市政の動きが分かる。

※全体に働き手への対応、働き方改革に終始していたような気がします。子供や高齢者など、サービスを受ける側のことも考えてほしい。

※委員会の内容報告にしては、不十分だと思う。

5. その他の感想、提案など

- ・土日の午前に来るのは子育て世代には難しいので、別の日程も考えてほしい。
- ・一部の回答が確認できない。
- ・会の開催のPR不足ではないか。
- ・家族で解決できる課題も多くあると思うので、日本文化の基盤である家族の在り方を各自考えてもいいのかなと思う。
- ・障がい者を育てる家族として、障がいがあっても地域社会の一人として日々が送れるよう、今後とも支援をお願いしたい。

- ・部活の地域移行について、しっかりと予算をつけて、地域の人材をボランティアではなく、財政面でも支援してほしい。
- ・どんなに障害が重くとも、住みやすい豊明になるように。(前後駅の四輪サポートカーの駐車も同じ視点で)